

平成30年11月 データから見た業界の動き

■ 概 況

11月の山梨県内のD I値は、全体で売上高は2ポイント、収益状況は0ポイント、景況感は-2ポイントとなり、前年比では売上高は悪化した但収益状況及び景況感は若干改善した。

製造業では、特に中部横断自動車道関連工事のコンクリート等の原料である砂利、工作機械部品加工業では年度末に工期を迎える公共工事物件に関する配電盤の受注量は増加しているが、原材料の調達難や人手不足の影響から売上高、収益状況、景況感の改善にはつながらなかった。

前半好調であった半導体も受注減の改善の兆しは見えず、先行きの不安も報告されている。

非製造業の古紙業界では、これまで環境対策を目的に輸入規制を実施していた中国の古紙不足から、品質が高い日本の古紙に対する需要が高まり、売上高が増加した。一方、建設業では人手不足や人件費及び資材の高騰に対し工事単価の上昇が少なく収益の悪化が報告された。

原油価格の下落からガソリン小売価格も低下傾向だが、中小企業の経営コストの低下までにはつながらず、依然として厳しい状況は続く。

総合的に原材料費・人件費等の経営コスト上昇傾向は引き続き強く、人手不足の慢性化も深刻な状況であり、受注機会の損失に繋がっているとの声もある。来年度の消費増税や働き方改革への対応を懸念する声もあり、中小企業の経営は一層の難しさを増すことが予想される。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品 (水産物加工)	猛暑・自然災害の影響から、これまで受注が少なかったギフトおせち等が動き出し、前年同月比の売上は106.5%。
食料品 (洋菓子製造)	自社製品は専門店、量販店向けとも前年を上回り、輸出向けは台湾向けが好調で、前年同月比103.2%。OEMは焼き菓子が好調で112.2%。全体では前年同月比107.7%。
食料品 (酒類製造業)	県産ワインの名声の高まりはあるが販路拡大が難しい。嗜好品であるワインの売上高増加のためには消費マインドの改善が望まれる。
繊維・同製品 (織物)	裏地は前月同様注文が続くが人手不足のため準備工程 (撚糸) が間に合わない状況である。
窯業・土石 (砂利)	骨材の需要は多いが、台風の影響から原石を採取できない状況が続き在庫不足が一層進む。売上高は前年同月比で30%増加。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年と比較し稼働率が上昇。いつまで続くかは不透明。

鉄鋼・金属 (金属被覆・彫刻業・熱処理業)	半導体関連は、受注が大きく減少した。来年の消費税増税前の一時的な需要の拡大が予想されるが、その後は更に厳しい状況になると懸念している。
電気機器 (工作機械部品加工業)	受注は確保できているが、人手不足により残業等が増加。売上高の増加以上に人件費が高んでいる。 働き方改革による取り組みは経営を圧迫しかねないと懸念している。
電気機器 (工作機械部品加工業)	半導体関連の受注状況がさらに悪化した。来年以降の仕事量も厳しい状況が続くと考えている。

● 非製造業

卸売（紙製品）	中国が古紙の輸入をアメリカから日本に変更し、国内メーカーに対し高値での取引が行われている。売上高は前年同月比200%。
小売 (電気機械器具小売業)	12/1からの4K・8K放送開始に伴いテレビの販売量が増加したが、これまで好調だったエアコン、冷蔵庫は低迷し、全体の売上高は前年同月比で5%増加だった。
小売 (ガソリン)	原油価格が急激に下落し、卸価格も下がっている。小売市場は以前と比べ販売しやすい状況である。
警備業	先月に続き売上高は前年同月比で10%増加した。新規で取引を始める建設会社からは中長期の公共工事現場の警備業務を安定した価格で受注、しかし従来からの取引先とは低価格が余儀なくされている。時間外労働の抑制、休日等の確保のため受注を控える状況となっている。
建設業（総合）	11月の県内公共工事動向によると、前年同月比で件数は1%増加しているものの、請負金額は11%減少している。11月末累計では件数は3件、請負金額は11%増加している。
建設業（型枠）	年末から年明けに向けて大型物件が公共、民間工事ともに予定があるが、人手不足による人件費や材料価格の高騰に対し工事単価が上昇が小さく、収益につながらない。
建設業（鉄構）	鋼材・資材の入手が困難であり調達状況を見ながら受注を行っている。
設備工事（電気工事）	住宅着工件数は先月に引き続き増加傾向だが、公共施設の受注は横ばい。業績全体からみると上向きの変動要素はない。
運輸（タクシー）	甲府市内は昇仙峡の紅葉等の効果によりタクシー利用者が増加した。燃料費の高騰と乗務員不足が経営に深刻な影響を及ぼしている。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/11	2018/10	2018/11	2017/11	2018/10	2018/11	2017/11	2018/10	2018/11
売 上 高	20	5	-5	17	13	7	18	10	2
収 益 状 況	0	0	-10	-3	0	7	-2	0	0
景 況 感	10	-25	-15	-3	-7	7	2	-14	-2

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

